

評価者	共創計画部長	比留間 彰
-----	--------	-------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進
目標とすべきまちの姿	交通不便地域の解消やバスや駅のバリアフリー化が進められ、市民が快適に公共交通機関を利用するようになっています。 公共交通機関の利用が促進されることにより、生活道路の渋滞が緩和されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	17.7%	平成29年度(2017年度)	20.7%	平成28年度(2016年度)	17.8%
	平成27年度(2015年度)	21.9%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.3%	1.7%	0.5%
ちょうどよい	0.7%	37.5%	1.5%
効果不十分	3.6%	5.6%	25.3%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.4%	1.2%	0.5%
ちょうどよい	1.6%	36.2%	1.4%
効果不十分	3.0%	7.2%	22.5%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	1.8%	0.7%
ちょうどよい	1.2%	41.6%	1.6%
効果不十分	1.4%	3.6%	24.2%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.0%	1.0%	0.1%
ちょうどよい	0.1%	38.1%	2.0%
効果不十分	0.7%	4.1%	25.6%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**(3) 今後の進め方**

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	40.8%	34.2%	2.8%	22.1%
平成29年度(2017年度)	36.9%	33.9%	3.2%	26.0%
平成28年度(2016年度)	35.5%	39.6%	2.0%	22.9%
平成27年度(2015年度)	35.2%	35.8%	1.4%	27.6%

**2 内部評価**

**(1) 平成30年度(2018年度)の目標**

エレベーターが設置されていない利用客数3,000人/日以上(湘南モノレール富士見町駅下りホーム及び湘南深沢駅)に関し、平成29年度において繰越を行った富士見町駅の下りホームや、平成30年度の整備を予定している湘南深沢駅の上りホーム及び同駅下りホームについて、交通事業者と協議し、エレベーターの設置に向けた支援を行う。(共創-07)  
 鉄道の輸送力向上については、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行う。(共創-07)

**(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性**

市民が快適に公共交通機関を利用するために、富士見町駅の下りホーム、湘南深沢駅の上りホーム及び同駅下りホームについて、交通事業者と協議し、エレベーターの設置に向けた支援を行い、駅のバリアフリー化を推進していく。(共創-07)  
 鉄道の輸送力向上については、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行い、輸送力の向上をすることで公共交通機関の利用促進していく。(共創-07)

**(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)**

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模
共創-07	公共交通支援事業	16,666	0	20,632	3,934	0.5	0.5	無	b	C

**(4) 主な実施内容**

**【主な実施内容】**  
 エレベーターが設置されていない利用客数3,000人/日以上(湘南モノレール富士見町駅下りホーム)について、交通事業者と協議し、エレベーターの設置に向けた支援を行った。(共創-07)  
 鉄道の輸送力向上については、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行った。(共創-07)

**【実施できなかった事業とその理由等】**  
 湘南深沢駅ホームにおけるエレベーター設置工事については事業者から「事前に地盤調査を行ったところ、想定よりも地盤が軟弱であることが判明し、工事の内容を見直す必要が生じ、工程の見直しの結果、平成30年度中の工事着手が困難となり、平成31年度から令和2年度にかけて工事を行うこととしたい。」との報告があったためエレベーター設置工事を見送った。(共創-07)

**(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

**< 上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等 >**  
 移動等円滑化の促進に関する基本方針(平成23年3月31日 国家公安委員会、総務省、国土交通省告示第1号)では、3,000人/日以上の利用がある駅にエレベーター等を設置(バリアフリー化)し、段差の解消等を図ることを目標としており、公共交通事業者はこの基本方針に従い設置を進めている。市としては、この基本方針及び鎌倉市移動円滑化基本構想に基づき、公共交通事業者への支援を継続して行っている。(共創-07)  
 湘南深沢駅のエレベーター設置工事について、実施できなかったため、有効性について「要改善」とした。(共創-07)

**(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

市内におけるバリアフリー化されていない対象駅は、湘南深沢駅であるが、基本的に、公共交通事業者への支援は、市と県の協調補助となっていることから、県と調整しつつ、今後も支援を行っていく。(共創-07)  
 鉄道の輸送力向上については、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行う。(共創-07)

**(7) 令和元年度(2019年度)の目標**

エレベーターが設置されていない利用客数3,000人/日以上(湘南モノレール湘南深沢駅)に関し、令和2年度の整備を予定している湘南深沢駅の上りホーム及び同駅下りホームについて、交通事業者と協議し、エレベーターの設置に向けた準備を進める。(共創-07)  
 鉄道の輸送力向上については、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行う。(共創-07)

**(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性**

市民が快適に公共交通機関を利用するために、湘南深沢駅の上りホーム及び同駅下りホームについて、交通事業者と協議し、エレベーターの設置に向けた準備を進めて、駅のバリアフリー化を推進していく。(共創-07)  
 鉄道の輸送力向上について、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行い、輸送力の向上をすることで公共交通機関の利用促進していく。(共創-07)

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	共創-07	事業名	公共交通支援事業						備考	
指標の内容	3,000人/日以上(湘南モノレール湘南深沢駅)の利用がある市内の駅のうち、バリアフリー化を達成した駅の数						単位	駅	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	移動等円滑化の促進に関する基本方針において、3,000人/日以上(湘南モノレール湘南深沢駅)の利用がある駅はエレベーター設置等のバリアフリー化をするよう義務付けられているため。									
年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
目標値	18	18	18	18	18	18				
実績値	13	14	16.5	16.5	17					
達成率	72.2%	77.8%	91.7%	91.7%	94.4%					

**参考 前年度外部評価結果への対応**

鎌倉市民評価委員会からの指摘

**課題**

・この施策の方針の事業が公共交通支援事業1本である。ゆえに富士見町駅のエレベーター設置につながらなければならないが、輸送力向上、公共交通機関の利用につながるのか。

・公共交通機関が観光客でいっぱいという現状の中で市民の公共交通機関の利用促進を図る意味はどこにあるのか。

・実際、市営の交通機関がない自治体である分、市民の人口分布や、観光客の公共交通機関の利用増から考えても、もっと交通機関に働きかけをしてもいいのではないか。エレベーターの設置支援だけでは公共交通機関の輸送力の向上は期待できない。目標とすべきまちの姿の達成も難しくなる。

**指摘への対応、コメント等**

・「バリアフリー化」と「エレベーター設置」に対する支援は、安全で快適な交通環境をつくり出し、市民の利便性向上により目指すべきまちの姿である「公共交通機関の利用促進による生活道路の渋滞緩和」につながるものと考えています。  
 輸送力向上については神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、混雑期に運行間隔の短縮等を含めたピーク時に対応できる対策について要望を行っています。

・江ノ島電鉄においてゴールデンウィークやアジサイの開花時期といった観光シーズンにおける輸送力が不足していることは認識していますが、特異日を除いた期間、また他の公共交通は有効であると考えています。特異日等の混雑対策としては事業者に対して輸送力の増強について要望を行うとともに、観光客に対して歩く観光の推奨を行っています。

・輸送力向上については神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じ、鉄道事業者に対して、要望活動を行っています。目標とすべきまちの姿である交通不便地域の解消についても、地元住民との対話を通じて検討していきます。

また、新たな移動手段の提供をするため、次世代交通システム導入の可能性について期待されるMaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)の研究を進めているところです。今後、交通事業者の協力を得ながら交通課題の解決に向けて検討してまいります。

### 質問

・「バリアフリー化」は事業者の責務ではないか？

・今年度目標である富士見町駅下りホームエレベータ設置工事は繰り越したが、取組が「適切」とはどういうことか。

・交通不便地域の解消に関する取組は何が行われているのか？29年度の指摘へのコメントで「高齢者が気軽に出かけられる環境を作り出すため、引き続き、他の手法も含め幅広く検討していく」と書かれているが、30年度は何に取り組む予定か？

### 質問に対する回答

・「バリアフリー化」については、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）により鉄軌道事業者等が講ずべき措置として、「鉄道駅等の新設・大規模改良及び新規車両等導入時における移動円滑化基準への適合義務」、「既設鉄道駅等及び既存車両等の移動円滑化基準への適合の努力義務」が定められています。

また、市が補助することについては、「地方公共団体は、国の施策に準じて、移動等円滑化を促進するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない」と定められています。

・設置工事は完了しなかったが、完了については、見通しが立った上での繰り越しであったため、「適切」と判断しました。

・交通不便地域の地元の方々と協議し、地元からの要望を受け、交通事業者に働きかけを行いました。

また、新たな移動手段の提供をするため、次世代交通システム導入の可能性について期待されるMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）の研究を進めているところです。今後、交通事業者の協力を得ながら交通課題の解決に向けて検討してまいります。

## 公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進

### 評価できるところ

・バリアフリー化工事への積極的な支援を行い、障がい者や高齢者が利用しやすい駅をつくることは大事な施策である。

		評価の内訳			委員会の評価
取組	1	1	6		
効果	1	2	-	5	
				-	

### 課題

・昨年は、駅やバス停から一定距離以上離れた場所にある地域を交通不便地域と位置づけ、ミニバス導入で、6地区あった交通不便地域を2地区に減らし小型モビリティによる社会実験などの記述があったが、これらの記述もなくなっている。検討を行わないこととなったのだろうか。  
 ・エレベーターが設置されていない利用客数3,000人/日以上上の駅(富士見町駅下りホーム及び湘南深沢駅)のバリアフリー化100%を目指してほしい。  
 ・記述が、富士見町駅、湘南深沢のバリアフリー対策、エレベーターのことのみで、「公共交通機関の輸送力の向上に対する施策」がわかりにくい。  
 ・鎌倉市オムニバスタウン計画に公共交通機関に関して書かれている。計画には「課題の優先度や施策実施に要する期間などを考え合わせ、段階的に取り組みを進めていく」とされているが、行われていない。

### 提言

・公共交通支援事業を行う市の責務は理解する。鉄道の輸送力向上について鉄道事業者に対しての要望活動は市民ニーズを調査し行っているのか。実態把握が必要である。  
 ・「鎌倉市オムニバスタウン計画」には、課題の優先順位や短期・中期・長期の目標もある。それらを指標として設定して頂きたい。

### 質問

・次世代交通システム導入の可能性について期待されるMaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)の研究を進めているところという記述があるが、具体的に何の研究をしているのか、本当にMaaSに対応する考えがあるのか、わからない。  
 ・交通不便地区の解消のためには何をしているのか？